



# 2007 年度 環境活動レポート

## 門司工場

(2007 年 4 月 ~ 2008 年 3 月)

ジャパンスーパーコンダクタテクノロジー株式会社

作成日 2008 年 6 月 30 日

線材 EA-009-07 年度

## 1. 組織の概要

事業所名 ジャパンスーパーコンダクタテクノロジー株式会社

代表者名 代表取締役 西元 善朗

所在地 〒800-007 福岡県北九州市門司区小森江2 - 2 - 1

環境管理責任者 線材部長 池谷 大

担当者氏名 線材部 山口 稔浩

TEL 093-391-2835

FAX 093-391-2847

Eメールアドレス yamaguchi-jastec@kobelco.jp

事業の内容 超電導線材の製造、販売

事業年度 4月～翌年3月

事業の規模

|      | 単位  | 2005年度年度<br>2005年4月～<br>2006年3月 | 2006年度<br>2006年4月～<br>2007年3月 | 2007年度<br>2007年4月～<br>2008年3月 |
|------|-----|---------------------------------|-------------------------------|-------------------------------|
| 売上高  | 百万円 | 606                             | 780                           | 908                           |
| 従業員数 | 人   | 27                              | 23                            | 31                            |
| 床面積  | m2  | 3,608                           | 3,608                         | 3,608                         |

従業員は年度初の数

事業の沿革

1980年 (株)神戸製鋼所が超電導線材の製造、販売を開始

2002年 ジャパンマグネットテクノロジー(株)と事業統合によりジャパンスーパーコンダクタテクノロジー(株)を設立

## 2. 環境方針

### 環境方針

#### 1. 環境理念

ジャパンスーパーコンダクタテクノロジー株式会社は、神戸製鋼グループの一員としてグループ環境経営のもと、環境に配慮した活動を展開します。

私たちが提供する超電導線材、超電導マグネットは電流を抵抗ゼロで流すことが可能であり、省エネルギーに貢献できる製品です。送電、発電機、核融合炉等の省エネルギー機器の開発に採用されています。

私たちはこれらの製品・技術の提供を通じて、健全な地球環境を次世代に残すとともに、事業活動においても環境に配慮した、地域と共存できる企業を目指していきます。

#### 2. 行動指針

従業員全員による下記の取組みを継続的に実施します。

環境経営システムを構築し、継続的に運用・改善するために組織体制を整備します。

環境関連法規制や当社が同意するその他の要求事項を順守し、環境汚染の予防に努めます。

環境への負荷の少ない循環型社会の構築に向けて二酸化炭素排出量の削減、水排出量の削減、廃棄物の減量・再資源化に努めます。

環境目標を設定し、定期的に見直すとともに継続的な改善を図ります。

全従業員が環境方針を認識し、方針に沿った活動が継続的に実践できるように教育、研修をおこないます。

地域社会の環境保全活動に参画します。

環境方針および環境経営システムに基づく実践活動の結果を公表します。

2007年5月7日

ジャパンスーパーコンダクタテクノロジー株式会社

代表取締役社長 西元 善郎

### 3. 環境目標と実績

#### 3.1 目標の達成状況

当社は、2007年度8月からEcoアクション21を構築し、環境活動に取り組んできた。過去の環境負荷実績及び、2007年8月～2008年3月の運用期間の目標と実績は以下のとおりである。

| 環境目標            | 目標<br>実績 | 単位              | 2005<br>年度 | 2006<br>年度 | 2007年度<br>(4-7月) | 2007年度<br>(8-3月) |
|-----------------|----------|-----------------|------------|------------|------------------|------------------|
| 二酸化炭素<br>排出量の削減 | 目標       | kg-CO2/生産量1トン*1 | -          | -          | -                | 3,039            |
|                 | 実績       | 総量(kg-CO2)      | 267,705    | 288,904    | 123,788          | 259,964          |
|                 |          | kg-CO2/生産量1トン*1 | 4,477      | 3,714      | 3,051            | 2,909            |
| 総排水量の<br>削減     | 目標       | m3-水/生産量1トン*1   | -          | -          | -                | 18.9             |
|                 | 実績       | 総量(m3)          | 1,705      | 1,644      | 1,095            | 1,447            |
|                 |          | m3-水/生産量1トン*1   | 28.5       | 29.5       | 27               | 16.2             |
| 廃棄物排出<br>量の削減   | 目標       | トン-廃棄物/生産量1トン*1 | *2         | *2         | *2               | -                |
|                 | 実績       | 総量(トン-廃棄物)      | *2         | *2         | *2               | 33.6             |
|                 |          | トン-廃棄物/生産量1トン*1 | *2         | *2         | *2               | 0.376            |

\*1 当社設定の定義による生産量

\*2 2007年7月以前は廃棄物のうち、一般ごみ、プラスチックなどの処理を神鋼メタル殿に委託しており実績が把握できていない

・CO2排出量、水排出量の削減については、従業員全員の努力により目標を確実に達成することができた。また、総廃棄物排出量に関しては月ごとのバラツキが非常に大きく運用期間が8ヶ月と短いため十分とはいえないがほぼ実績を把握することができた。

#### 3.2 今年度以降の目標

| 環境目標              | 単位(生産<br>量当たり)    | 2007年度(2007年<br>8月-2008年3月) | 2008年度(2008年<br>4月-2009年3月) | 2009年度(2009年<br>4月-2010年3月) |
|-------------------|-------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|
| 二酸化炭素排<br>出量の削減*1 | kg-CO2/生産<br>量1トン | 3,039( 0.4%)                | 3,027( 0.8%)                | 3,014( 1.2%)                |
| 総排水量の削減<br>*1     | m3-水/生産量<br>1トン   | 18.9( 30%)                  | 17.6( 35%)                  | 16.2( 40%)                  |
| 廃棄物排出量の<br>削減*2   | トン-廃棄物/<br>生産量1トン | 8~3月の実績を<br>把握できた(0.376)    | 0.374( 0.5%)                | 0.372( 1.0%)                |

\*1:( )内は2007年4~7月の実績に対する削減率('07年度から生産量が増加しているため) \*

2:( )内は2007年8~3月の実績に対する削減率('07年度7月以前は実績把握できていないため)

## 4. おもな環境活動計画

### 4.1 二酸化炭素排出量削減のための取り組み目標と取り組み方法

#### (1) 電気使用量の削減(0.4%)

- 1、2号炉から製品取り出しした後、扉をすぐに閉める
- コンプレッサのエア漏れを修理し、設定圧力の低減を図る
- 証明、各種設備にこまめな停止ステッカーを貼り注意喚起を図る

### 4.2 総排水量削減のための取り組み

#### (1) 冷却水、洗浄水の削減(30%)

- テナトハウス内小型電気炉の冷却水を循環方式に変更する

#### (2) 節水活動の推進

- 水道蛇口付近に節水ステッカーを貼り注意喚起を図る

### 4.3 廃棄物排出量の削減のための取り組み

#### (1) 再利用、繰り返し利用の徹底

- 銅パイプ内面拭き用ウエスを油拭き、ソルト除去として再利用する
- SV チップのキャップを業者に返却し、繰り返し使用する
- 裏紙ゴビの徹底を図る

#### (2) 酸排出量の削減

- 硝酸洗いに使用する吊り具を改善し硝酸排出量の削減を図る

## 5. 環境活動の取り組み結果の評価

エコアクション 21 を運用した2007年8月～2008年3月における活動目標に対する実績は以下の通りであった。

| 目標                 | 単位<br>(生産量当たり) | 2007年度<br>4-7月実績 | 2007年度<br>8-3月目標 | 2007年度<br>8-3月実績 | 目標<br>達成 |
|--------------------|----------------|------------------|------------------|------------------|----------|
| <b>二酸化炭素排出量の削減</b> | kg-CO2/トン-生産量  | 3,051            | 3,039            | 2,909            |          |
| (電気使用量削減)          | kwh/トン-生産量     | 8,072            | 8,040            | 7,696            |          |
| <b>水排出量の削減</b>     | m3-水/トン-生産量    | 27               | 18.9             | 16.2             |          |
| <b>総廃棄物排出量の削減</b>  | トン-廃棄物/トン-生産量  | - *1             | - *1             | 0.376            | -        |
| (再利用、繰り返し使用の徹底)    | kg-廃棄物/トン-生産量  | 14.5*2           | 13.5             | 11.7             |          |
| (酸排出量の削減)          | kg-酸/トン-生産量    | 189*2            | 132              | 63.6             |          |

\*1 2007年7月以前は廃棄物のうち、一般ごみ、廃プラなどの処理を神鋼メタル殿に委託しており実績が把握できていない

\*2 廃棄物排出量に関しては、バラツキが大きいため2006年度1年間の実績(酸以外は購入量で比較)

### 5.1 二酸化炭素排出量の削減

- ・ 二酸化炭素排出量の削減に関しては目標を達成できた。
- ・ 電気使用量の削減に関しては、製品取り出し後すぐに電気炉の扉を閉めるという削減対策が予想以上の効果をあげており、目標を達成できた。また、コンプレッサーの設定圧力低減、照明、各種電気設備のこまめな停止による節電も、確実に実施できた。
- ・ 電気使用量に関しては削減効果が大きい案件がなく、皆で知恵を絞っての対応であったが、全員の努力で目標を達成することができた。

### 5.2 水排出量の削減

- ・ 水排出量の削減に関しても目標を達成することができた。
- ・ 新規に導入した小型電気炉の稼働率が非常に高くなったため、冷却水を循環方式に変更したことで、水排出量を大幅に削減できた。改造工事に伴う費用も1年で回収することができ、経済効果も大きかった。
- ・ 水道水をこまめに止めるなどの活動も確実に実施できている。会社での削減効果は少ないものの、家庭での実施も呼びかけており、照明、電気設備の節電とともに従業員全員に節減意識が浸透しつつある。

### 5.3 廃棄物排出量の削減

- ・ 廃棄物は2007年7月まで一部神鋼メタル殿に処理を委託していたが、8月からは自社で処理することとした。その結果、総廃棄物量の実績を把握することができたが、月ごとのバラツキが非常に大きく、運用期間が8ヶ月と短いこともあり見直しが必要になる可能性もある。
- ・ 2007年度8～3月は2006年度の実績(購入実績で代用)が把握できている廃棄物について削減活動に取り組んだ。その結果、すべての項目で削減目標を達成することができた。

## 6. 環境関連法規等への違反、訴訟等の有無

- ・ 環境関連法規等の遵守状況を確認した結果、環境法規等の逸脱はなかった。
- ・ ただし、今年から廃棄に関する管理票の交付状況について毎年北九州市に報告する必要が発生しており、確実に実行していく必要がある。
- ・ また、関係機関等からの指摘、地域住民、利害関係者からの訴訟や苦情はなく、過去3年間にわたっても違反や訴訟はなかった。

## 7. 地域社会との環境保全共同活動等

- ・ 当社工場周辺の道路を1回/月、スタッフが輪番で清掃をおこない、地域美化活動の一環として参画している。